

電信課長



大臣

次官

古

一〇一八

露都 九月廿一日 六二八

内閣大臣

政務



第九〇九号

密印

通商

過日來政府ハ二三ノ大臣ヲ任命セラル

人事

タルモ労働兵會ハ社會黨大會以前ニ新閣

會計

員ヲ任命スルニ反對シタルヲ以テ政府ハ其

文書

任命ヲ發表スルコト能ハサリシカ(不明)外

參政官

務大臣「テレスチニ」ハ昨二十五日遊ニ辭表

副參政官

ヲ提出セリ又「ケレスキ」ハ漸ク昨夜歸

京セリ明日開會ハ社會黨大會ハ過激

多クモ...

派代表者トシテ... 外ニ名選出カレタ
リ尚「パトリオット」労働兵會ハ極力聯立内
閣ニ反對タルモ労働兵會中央本部ハ昨日
一〇一ニ對スル一八九ノ多數ヲ以テ有産
階級トシテ聯立内閣組織ヲ可決セリ

290157

電信課長



大臣

次官

吉田

本野外務大臣

内田大使

平

露都察 癸亥年十月 三日 午後 七時

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

第九〇九號
過日來政府二三ノ大臣ヲ任命セリトモ
此ノ反對シテハ以テ政府ニ其任命ヲ
表スルニト能ハカリシカ外務大臣
ハ昨午可遂ニ辭表ヲ提出セリ又
漸々一昨日夜歸京セリ明日開會ノ社
會黨大會ニ過激派代表者トシテ
之ありの事云々

外ニ名選出カレタリ尚「ト」トガ「ト」労働會
ハ極力聯立内閣ニ反對セルモ労働會中
共事初「昨日」一「二」ニ對スル一二九ノ多
數ノ以テ有産階級ト聯立内閣組織ヲ可
法セリ

大正六年十月二日 接

駐務局

第二課

五

參謀第二六四四號

大正六年九月廿九日

參謀本部

歐洲戦争

其二八八

秘

露都發電報

九月廿九日發

露軍ノ總參謀長ニハ「ドツホニ」中將又北方面軍司令官ニ「チエレソフ」中將ノ任命決定セリ從テ野戰軍ト行政部トヲ問ハス今ヤ露軍ノ首腦部ハ社會派ノモノヲ以テ充タサルニ至レリ然レトモ目下ノ所戦争繼續ノ意志ニ就テハ是等軍首腦者ノ間ニモ鞏固ニ表明セラレ近ク實施セラルヘキ事乃至四十ニ歳ノ兵卒ヲ歸郷セシムル件モ不良卒病兵ヲ去リテ軍紀及裝備ノ改善ヲ圖ラント見地ヨリ出テレモノトス

本二十五日開カルヘキ社會黨大會ハ諸方面ヨリノ抗議ノ準備ノ不

良トヨリ二十七日ニ延期セリ然レトモ過激派ノ勢力ハ日ニ強ク今ヤ「ケレジスキ」ヲ「ゴルニロフ」ノ連累トシテ彈劾ヲ唱フルニ至リ果シテ大會ノ曉過激派勝ヲ制スルモ露都屯在軍隊ノ大部過激派ノ手中ニ在ル關係上政府ヲ断乎トシテ過激派ヲ壓迫スルノ望少ナシ

稍、信スヘキ佛國人ノ言ニ依レハ「ロヤナ」ノ後任トシテ大本營附佛國代表武官トナル「シヘル」中將ハ將官以下大尉マテ佛國將校多數露國ニ派遣セラレ露軍ノ素質改善ニ從事スヘク近ク到着スヘキヲ言明セリト云フ此風説ハ新露國陸軍大臣ノ露軍刷新方針ト一致スルヲ以テ或ハ事實トナルヤモ知レス目下露軍ニ在ル佛國將校ハ技術者ヲ合シ約百五十人ナル軍隊改革ノ爲ニハ甚ク多數ノ將校ヲ要スルコト明カナリ(羅軍ノ教官タル佛將校トニテモ二百名ニ近シ)從テ此事實ハ英國ヲ始メ他ノ協商列國ニモ關係アルヘク而モ其成功ハ期シ難シ蓋シ露軍ノ素質ハ根本的ニ破壊セラレ平和ヲ望ムル念強キヲ以テ緩急ヲ失セハ露國將校同様に凌辱ノ危害ヲ加ヘ露佛ノ關係ニ疎隔ヲ来スコトオキクヲ保セザレハナリ

290159

附10675號

附屬書類添附

大正六年十月一日 接獲

警務局

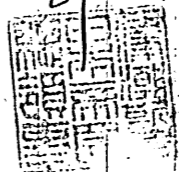
第一課

機密 第五四號

大正六年九月二十五日

在浦潮斯德

總領事菊池義郎



外務大臣陸子爵本野一郎 敬

第二課

臨時

労兵會踏危ニ関スル件

本年三月露兵革命會勃發シテ各地ニテ各地同
様労働者及兵員ニテ労働會組織セラルルカ元
來同會ハ其成立ヲ見ルニ上記如キ百層階級
ノ社會的團體ニ過キサルニ拘ルニ及初ヨリ會員
ノ多數ハ兵力ヲ恃リテ隱然大勢力ヲ有シ行政

在浦潮斯德日本總領事館

上ニハ市保衛委員會ニ多數代表者ヲ加セシメ

テ甚大ノ實力ヲ振ヒ又労働者兵員階級ニ関スル
社會的及政治的向題ニハ多細大トナリ權利利益ノ
伸張ニ助メ居ルニトシ革命會當初ノ勞兵會地主
臨行政機關ニ保衛委員會ニ可ナリ勢力ヲ有シテ
労働會ヲ制壓シ労働會亦亦當ニ法令秩序ノ
尊重ヲ行フヲ認メ利益主張ノ裡自ラ行動ニ節制
ヲ加ヘ来リテ之ニ四月我々ノ目的及諸如向題ニ
関シ政府ノ動搖ヲ見次テ未ダ其無政府主義
者陸續派系ニ決主我ヲ傳播シテ頃ヨリ労働會
ノ總反漸ク過激トナリ盛ニ中産階級以上ニ對シテ
抗ノ聲ヲ示シ爾来ハ勢漸次增長シ最近ハ中産
階級以上ニ對シテ反抗無異其極ニ達セントシ之レカ

296161

労兵會最近ノ行動特ニ這回ノ改進黨取リニ逐
ニ耐ヘ兼テ紙上及覆其不法ヲ難詰シ長ク之レカ
一例トシテ最近労兵會カ政府ノ行政機關
タル市會委員會ニ加ヘタル不法的壓迫ニ
關スル同我々記者等ノ深付ニ労兵會現
狀ヲ調査考申進下致具

在浦潮斯德日本總領事館

浦潮新徳市労働者共済会改選 (譯文)

最近ニテ浦潮新徳市ニ於テ政府ノ市年四月二十四日會令ニ依リ組織セラレタル市給養委員會在在セリ本委員會ノ作業ハ甚ク濁差リ(キエナリ)シモ尙又濁差リ(カサリ)シモモ委員會ノ改選ハ會令ニ依リ官廳ノ爲メ之廢止セザル限リハ有知シテ市民ニ對シ拘束カヤ有ルニナリ然レモ最近委員會ノ事業ニ對シ局外者ノ干渉ヲ見ルニ至リ即チ浦潮新徳市ニ於テ軍隊ノ職業組合其他有志者ニ市給養事業全部ヲ自家ノ手中ニ收メリ爲メ登錄主者ニ依リ特立シ給養組合ヲ組織シ之爲地労働者共済代表者會組織行キ委員會對シ自己ノ存在權及投票執行權ノ承認ヲ要求シタルニ依リ委員長ハ「ハイ」以テ「同意」ヲ以テ大標開キ委員會對シ債物及是ノ爲メ浦潮新徳市ニ於テ投票執行し得ル旨ノ証

在浦潮新徳日本總領事館

明書ヲ付ガセリ此ノ労働者共済代表者會總會ハ七革命前ノ標開ノ存在權ニ對シ之ヲ承認シ且大標開ヨリ市給養委員會ニ代表者ヲ参加セザル之ニ要求權ヲ認メタリ斯ノ如キ労働者共済代表者會ハ明白ニ法律ニ依リテ「法律」ヨリテ「クダラシ」トシテ「革命」ノ政府ノ制定ニ依リテ「中産階級政府」ノ法律ニ依リテ「救済」ノ目的トシテ「政府」ノ爲メ「義務」ヲ「執行」シ「此」ノ外「他」ノ「事」ハ「市給養委員會」ノ「労働者共済代表者會」ノ「権威」ニ「對シ」テ「支持」セザル「無政府主義」者「流」ニ「對シ」テ「要求」ト「衝突」シ「自己」ノ「組織」内「ハ」不法「ト」シ「給養」後「業」ヲ「加ヘ」爲メ「適法」ナル「政府」標開「自己」ヲ「法律」ノ「元」ニ「シテ」シ「其」決意「シテ」人民「ニ」對シ「法律」上「拘束」カ「ラ」ズ「ナリ」キ「事」ヲ「將」又「政府」ノ「法律」及「意思」ニ「對シ」テ「強制」及「之」ハ「強制」ニ「對シ」テ「労働者共済代表者會」ノ「権威」ヲ

290164 初10668番

附屬書類附

大正六年十月一日 接受

陸軍部 第一課

警務局 第一課

謀略部 第九號

謀略部 第九號

大正六年九月五日 關東都督府陸軍參謀長高山公通

外務次官幣原喜重郎殿

別冊謀字七九號及報告候也

第二課

陸軍部

290165

秘 誅

第七九號

大正六年九月二十五日 關東都督府陸軍參謀部

目次

露國

軍事

露軍ノ軍紀ニ就キテ

交通

三浦塩斯德ヨリ黒龍江各水道西伯利各

河川シエークスナ「カーマ」及「ウオール

カ河ニ由リ歐露鐵道諸驛ニ至ル水陸

連帶運輸設定案

時事

突「コルニコフ」將軍政府反抗ノ影響

290166

露國軍事

露軍ノ軍紀ニ就キテ
 露軍軍紀ノ頽廢ハ交戦能力ノ減退命令不服任意退却逃亡等着々トシテ戦線ニ於テ立證セラレ遂ニ死刑適用ノ必要ヲ絶叫セシムルニ至リシカ今ヤ露國上下モ軍隊ニ於ケル軍紀頽廢ノ實狀ヲ熟知シ輿論モ亦之ヲ責メントスルニ至リ陸軍大臣ノ命令ヲ始ノ軍隊及軍人ノ現状恢復ニ關スル命令頻發スルニ至レリ今軍紀及秩序恢復ニ關連シ最近ノ見聞ヲ列記シ以テ一ニハ露軍ノ現状ヲ察シ一ニハ恢復ニ關スル努力

- ノ一斑ヲ窺ハントス
- 一 七月下旬以降ニ於テ陸海軍大臣ハ戦闘命令不遂行ノ煽動ヲナスモノヲ反逆罪トシテ處罰スルコト并同目的ヲ有スル臨時刊行物ヲ取締ルコト及集會禁止ノ命令ヲ下シ又陸軍大臣ハ補充ノ爲求着スル兵卒ノ規律紊亂甚タシキヲ以テ原隊ニ於テ充分ノ教育并選擇ヲ行フヘキコトヲ命令セリ
- 二 露國臨時政府ハ軍人ノ賭博并之ニ類スル遊戯ヲ行フコトヲ禁セリ
- 三 沿黒龍江軍管司令官ハ逃亡兵豫防及其ノ發

見ヲ容易ナラシムル爲ニ兵卒ニハ部隊號
及姓名等ヲ記入セル身許證明書ヲ交付スヘ
キヲ命セリ

四、八月下旬臨時「イルクーツ」軍管司令官中尉
「ク」ヲコウエツキ「ハ」管内勞兵及農民委員會ノ
同意ヲ得各衛戍地ニ向テ衛戍衛兵隊長以外
ニ衛戍執政官ヲ撰擧スヘク該執政官ハ衛戍
地内ノ治安保持ノ任ニ當リ衛戍衛兵隊長ノ
副官ノ職務ヲ掌ル可キコト、將校及兵卒共
ニ身許證明書ヲ携帶スヘキコト并將卒共ニ
整然軍服ヲ着用スヘキ等ヲ命令セリ(八月下旬及
九月下旬ノ會)

又同官ハ補充隊教育督勵ニ關スル陸軍大臣
ノ命令ニ基ツキ勞兵及農民委員會ノ同意ヲ
得各補充隊ニ於テハ軍管所定ノ課程ニ從ヒ
各部隊長ノ監視下ニ全力ヲ擧ケテ勉勵シ殊
ニ各個教育及部隊ノ軍紀ニ留意ス可ク且兵
卒ノ文字教育ヲ行フヘキ主旨ニ基キ詳細ナ
ル嚴命ヲ下シタリ

五、九月上旬在哈爾濱各軍隊聯合委員會ニ於テ
ハ沿黑龍江軍管司令官ノ命令ニ基ツキ左ノ諸
件ヲ決議セリ
イ、統テノ軍人ハ制服ヲ着用セサルヘカラス



如何ナル場合ト雖軍服ト他ノ服トヲ混合着用スルコトヲ許サス肩章ニハ必ス其ノ隊旗ヲ附セサルヘカラス地方守備隊附軍人ニシテ制服ヲ着用セサルモノハ拘留セララル（曩ニ哈爾濱衛戍司令官ハ公務以外軍服着用必要トセサル件ヲ命令セシカ今回ノ決議ニヨリ前命令ハ自ラ取消サルヘシ）

口、酌酌セル軍人ハ直ニ附近ノ警察隊ニ引致シ其ノ覺醒スル迄留置セララル

ハ、軍人ハ各自其ノ身許ノ證明書ヲ受クルモノトス

二、勞兵委員會或ハ國民歩兵大隊聯隊中隊及

獨立小部隊委員會ヨリノ相當證明書ヲ有スルモノニアラカレハ軍人ヲ拘留或ハ引致スルノ權ナシ

ホ、軍人ハ警察兵或ハ治安ヲ維持スル者ノ爲ニハ協力援助ヲナササルヘカラス

ハ、通過輸送梯團軍人ニ酒類販賣ヲ禁止スルコトハ適時軍隊ヨリ協力スルモ主トシテ警察兵ノ任務ナリ

ト、中隊及獨立小部隊ニ於テハ日課表ニヨル課業ヲ實施スヘシ總テノ將校ハ必ス午前八時ヨリ十一時迄午後三時ヨリ五時迄隊



内ニ在ルモノトス
 予、軍管衛戍及旅團ノ命令ハ總テ必ス實行セ
 サルヘカラス
 リ、聯隊國民歩兵大隊中隊ノ委員會ハ禁酒ニ
 ツキ適當ナル方法ヲ採ルコトヲ常ニ怠ラ
 ス時ニ或ハ軍醫其ノ他ヲシテ飲酒ノ有害
 ナル講談ヲナサシムヘシ
 以上記スルカ如ク今ヤ露軍當事者ハ必要ニ迫
 ラレ軍人改造ノ爲諸種ノ手段ヲ講スルニ至シ
 リ然レトモ是等諸手段モ概ネ皆枝葉ノ問題ニ
 シテ未タ軍紀恢復ノ根原ニ觸レズ階級ニ應シ

將校ニ相當權威ヲ與フルコトノ極メテ必要ナ
 ルニ係ラス此點ニ關シ何等具體的ノ努力ナク
 却テ大尉ヲシテ其ノ階級ノ儘陸軍次官タラシ
 メ中尉ヲシテ其ノ儘「イルクーツク」軍管司令官
 ノ職ヲ採ラシムル等及軍紀精神ノ墮如タルモ
 ノアリ
 死刑ノ如キモ已ニ復活ニ決セルモ之カ施行ハ
 軍隊自ラ行フ能ハスシテ執政官ノ介立スルモ
 ノアル爲歐露軍隊ニ於テモ有名無實ノ状態ナ
 ルカ如シ
 顧フニ露國革命ノ寵兒「ケレンスキ」ハ同時ニ

290170

革命ノ偉大ナル恩人ナルモ革命ノ成効ニ急ナルト共ニ元来軍隊ノ何物タルヲ解セサルノ徒ナリ從テ其ノ陸軍大臣就職當時ニ於テ發セラレタル命令ニ於テ或ハ公務以外ノ敬禮ヲ廢止シ或ハ隨時隨所軍人ニ政談ヲ許可セル等畢竟軍紀ノ破壊者タルニ外ナラス然ル後戰場ニ馳驅シ軍隊ヲ督勵スルモ何等ノ効アラシク其ノ矛盾密口笑フ可シ今ヤ自ラ身文官ニシテ總軍司令官タル統帥權ヲ掌握スルニ至ル其ノ得意ヤ想フ可シ而シテ又軍令軍紀ノ何タルヲ解セサル庸民ハ之ヲ謳歌スヘシ之レ實ニ露軍ノ禍ナリ要スルニケレシスキ」一派ノ權力ノ墜落シ之ニ代ル可キ偉才ノ出現セサル限り露國軍隊ノ軍紀恢復ハ到底之ヲ期待スルヲ得サルヘシ哈爾賓露國ノ某文官ハ將校ニ權力ヲ附與スルノ必要ヲ唱ヘ某少尉補ハケレシスキ」ノ總軍司令官タルノ誤レルヲ談ス蓋シ冷靜ナル常識ノ聲ナリ吾人ハ此聲ノ如何ニ擴大シ如何ニ露人間ニ反響スルヤヲ注意セントス

露國交通

三浦塩斯徳ヨリ黒龍江各水道西伯利各
河川シエークスナ「カ」マ及「ウ」オール
「ガ」河ニ由リ歐露鐵道諸驛ニ至ル水陸
連帶運輸設定案

本文ハ哈爾濱滿鐵公所ノ翻譯セルモノニシテ西伯
利水陸輸送ニ関スル参考資料ニ適ス

第一七六次露國國際交通事務協議會ニ於テ露
西亜内國水路運輸局長ノ發議ニ係ル左記經路
ニ由ル水陸貨物連帶運輸設定問題ニ關シ審議
アリタリ

六

浦塩斯徳「ハ」バ「ロ」フスク(鐵道) 「ハ」バ「ロ」
フスク「ス」レー「チ」エンスク(水路) 「ス」レー「チ」
エンスク「チ」エレモ「シ」ニカ「ノ」ウオ、ニコラ
エフスク(鐵道) 「チ」エレモ「シ」ニカ「ノ」西部西
伯利河川「東」部烏拉爾鐵道「サイ」タ「コ」ウ「オ」
(タウダ河畔)(水路) 「サイ」タ「コ」ウ「オ」レ「フ」シ
「ノ」又「ハ」ベルム(鐵道) 「レ」フ「シ」「ノ」又「ハ」ベル
ム「カ」マ河及「ウ」オール「ガ」河「歐」露鐵道諸
驛

而シテ目下浦塩斯徳ヨリハ左記三經路ニ由ル連
帶運輸ノ設定アリ

一、露清聯絡運輸

二、黒龍烏蘇里兩鐵道聯絡運輸（ハバロフスク
及「スレーチエンスク」經由）

三、ボグラニーナヤ—滿洲里—ハウオニコラ

エフスク—トウ—ラ（又ハチエメ—ン）—ベル

ム—レフ—シ—ノ—カ—マ河及ウオールガ河

—露國鐵道諸驛（水陸連帶運輸）

本會ニ提出セラレタル新經路ノ水陸連帶運

輸設定案ハ浦塩港ニ於ケル貨物ノ停滯ト東清

鐵道ニ於ケル車輛ノ不足ヨリ起レルモノニシ

テ殊ニ目下露國ニ在リテハ茶及棉花ノ缺乏甚

クシク將ニ危機ニ瀕セントシツアルニ際シ

斯種貨物ノ水陸連帶輸送ハ極メテ重要ナル問

題ナリトス加之浦塩港ニ在リテハ茶ノ停滯約

百萬布度ニ及ヒ棉花ノ停滯約五百萬布度ニ達

セルヲ見ル右ノ外尚戰線ニ急送スヘキ鐵線ノ

停滯約四、五百萬布度ニ上ル

本交通ハ西部西伯利河系ノ利用ニ依リ西伯利

鐵道本線ニ於ケル車輛ニ餘裕ヲ與ヘ得ヘク又

目下ボグラニーナヤ—ハウオニコラエフスク

及チエメ—ン經由ノ聯絡貨物ヲ失ヒ居ル黒龍

江水運利用ノ意味ニ於テ其ノ設定ノ大ニ待望



セラルル理由アリトス
 更ニ本交通設定ノ所要ナル所以ハ「ウオ」ニコ
 ラ「エフスク」チ「エメ」ン間ニ於ケル輸送状態
 ノ紊乱ヲ除去スルコトヲ得即チ「ウオ」ニコラ
 エ「フスク」ニ於テ行ハレツツアル極メテ困難ナ
 ル貨物積換作業ハ本経路ノ運輸ニ依リ之ヲ「エ
 エレモ」シニカニ於テ行フコトヲ得ヘク又「エ
 カ」テリンブルグ「エメ」ン線ニ於テ貨物
 ノ停滞シタル場合船舶ト鐵道トノ貨物ノ引継
 キハ「エメ」ンヨリ「サイ」タコ「ウオ」ニ移スコ
 トヲ得ヘシ

本問題ノ討議中鐵道側ニ於テ疑問ト為セル要
 點左ノ如シ即チ

本交通ハ六回ニ亘ル貨物ノ積換ヲ為ス要アルカ
 其ノ運賃巨額ニ達スルコトナキヤ「トウ」ラ
 河ノ屢々減水スルハ故障トナラサルヤ又西伯
 利河川ニ於ケル航運期間ハ比較的短期ナルカ故
 ニ途中運送中止ヲ為ササルヘカラサルカ如
 キコトナキヤ保證シ得ヘキヤ

右質問ニ對シ左ノ説明アリ即チ

西伯利河川ノ航行期ハ六箇月トス又河川減
 水ノ問題ニ關シテハ普通「トウ」ラニ至ル航運

船ハ吃水最浅キモノヲ用ヒ從來曾テ貨物ノト
ウラニ連セサルニ先ケ開航期ノ到リタルカ
如キコト無シ、又必要ノ場合ハトウラニ於ケ
ル貨物ノ積換ヲサイタコーウオニ移スコト
ヲ得ヘシト

唯本問題討議ノ場合、西部西伯利汽船會社カ疑
問ト爲セル一點ハ目下サイタコーウオニハ倉
庫ノ設備無キニ此處ニ貨物ノ積換ヲ爲ス場合
汽船會社ノ負フヘキ責任果シテ如何ナルモノ
ナルヘキヤト云フニアリキ、

東清鐵道代表者ハ本交通ノ設定並或種貨物ノ

水路輸送ニ對シ何等反對ノ意見無キモ茶ノ如
キハ陸上輸送ニ由ラサルヘカラストノ意見ヲ
述ヘテ曰ク

「ババロフスク」スレーキエンスクノ經路ニ
由ル茶ノ輸送ハ曾テ既ニ試ミラレタルコト
アルモ結果不良ナリキ、即チ其ノ理由ノ一ハ
「ババロフスク」ニ倉庫ノ設備無キコトニシ
テ茶ヲ野積保管ト爲スハ損害多ク此ノ種貨
物ニ不適當ナルコト、ニハ本問題ノ經路ニ由ラ
シメントスルトキハ浦塩斯德ニ於テ茶ノ輸
入税ヲ支拂ハサルヘカラサルコトトナリ當

業者ニ不利ナル影響ヲ與フルコト是ナリト
右ノ意見ニ對シテハ會議ニ於テ得タル説明左
如シ

本文通設定問題ハ水路輸送委員會打合會ニ
於テ豫メ覈査審議ヲ遂ケタル結果提出セラ
レタルモノニシテ且同打合會ニ列席シタル
關稅局代表者ニアリテモ本文通連帶運送書
類ニ依リ輸送セラルヘキ茶ニ對シテハ各運
輸機關ニ於テ相當責任ヲ負フコトニセハ浦
塩斯德ニ於ケル關稅ノ支拂ヲ要セサルヘキ
旨ヲ言明セリト

尚本會議ニ於テ報告セラレタルコト左ノ如シ
目下「ハバ」口フスクニ於テ約五百萬布度ノ
貨物收容力ヲ有スル陸軍倉庫不用トナリ之
ヲ融通シ得ヘク其ノ他茶以外ノ貯積保管貨
物ニ對シテ使用シ得ヘキ四「デ」ヤ「ナ」ノ空
地アリト次ニ「サ」イ「タ」コ「ウ」オノ積換問題ニ
關シテハ貨物カ一時ニ到着スルニアラステ
テ漸次ニ到着スルモノナレハ之カ積換ニハ
何等困難ヲ感スルコトナカルヘキ旨説明ア
リ

次テ種々意見ノ交換アリタル結果會議ハ今回

計畫セラルルヘキ新交通ノ設定ニ就キ何等及對
 意見無キ事茶ノ輸送ハ關稅局側ニ於テ浦塩斯
 德ニ於ケル關稅ノ支拂ヲ免スルヲ條件トシテ
 實現セシメ得ル事ニ一致シタリ尚會議ハ「サイ
 タコーウオ」(タウダ河畔)ニ於ケル貨物陸揚棧橋
 ノ設備ニ關シ相當ノ方法ヲ講セラレンコトヲ
 交通大臣ニ具申スルコトニ議決シタリ斯クシ
 テ種々考慮ヲ重ネタル結果會議ハ本提案ニ依
 ル連帶運輸ヲ實施スルノ可能ナルヲ認め之ヲ
 高加索後東海連帶運輸ニ適用セラレツツアル
 運送規則及運送書類ニ基キ實施セシムルコト
 ニ

議定セリ

國際交通事務管理局ハ本會議ノ議定書ノ送付
 ト同時ニ今日迄ニ本交通ニ依ル汽船運賃ノ提
 出セラレタルハ紅茶ニ對スルモノノミニシテ
 他ノ貨物ニ對スル汽船運賃ハ追テ通知アルヘ
 キ旨ヲ附言セリ

紅茶運賃左ノ如シ

- 「ハバロフスク」(スレーキエンスク)間 一布度ニ付一留三口哥
- 「キエレモシニコフ」(又ハ「ノウオ」)コラエラダ)間
- 「サイタコトウオ」(「タウダ河畔」)若ハ
- 「トウラ」(「キエメーン」)間 一布度ニ付〇留九一哥



ベルムーニージターハヴゴドク問
一布度村の留ハハ哥
以上述フル所ニ依リ夫々打合ハセヲ為シタル
結果、債率調査委員會ハ浦塩斯徳ト露國鐵道諸
驛間ニ於テ左記經路ニ由リ連帶運輸ヲ實於ス
ルコトニ決定セリ

浦塩斯徳ハババロフスクースレーチエン
スク(又ハ黒龍江口)ニコラエフスク(發)チエ
レモシニカ(又ハバノウオニコラエフスク)チサ
イタコトウオ(又ハベルム)又ハレフシーノ(チ)シ
エークスナ(チ)カ(チ)マ及ウオールガ諸川各埠
頭一露國鐵道諸驛

三

鐵道ヨリ汽船ヘノ貨物ノ引継キハ
ハバロフスク(但シ黒龍江口)ニコラエフス
ク(發)ノ場合ハババロフスクニ於テ引継キ
ヲ為サス(チ)エレモシニカ(又ハバノウオニコラ
エフスク)及ベルム(又ハレフシーノ)ニ於テ行
ヒ

汽船ヨリ鐵道ヘノ貨物ノ陸揚ケ又ハ積込ミハ
スレーチエンスク(チ)サイタコトウオ及前記河
川ノ各埠頭ニ於テ之ヲ行フ
又貨物ノ運送ハ左記ノ規定ニ依ルコト
一、本連帶運輸ハ高加索後東海連帶運輸ニ適用

シツツアル運送規則及運送書類ニ依リ行フ
コト(全員可決)

二、鐵道運賃ノ計算ハ各鐵道ノ運送區間ニ對ス
ル運賃ノ總合計カ露清聯絡運輸輸入運賃率
規則ニ依リ著驛迄算出シタル總運賃ヲ超過
セサル範圍内タルヘキコト(一對セニテ可決
本件ニ關シエヌエヌ、ベルリユーブスキ「氏
ハ別箇ノ意見ヲ有セシ為全員可決ニ至ラサ
リキ)

三、鐵道ノ收得スヘキ附帶料金ハ黑龍、烏蘇里兩
鐵道聯絡運輸規程ニ定メアル料金ヲ參加鐵
道

道毎ニ徵收スルコト、但シ交通事務費ハ一回
ニ限り徵收ス(全員可決)

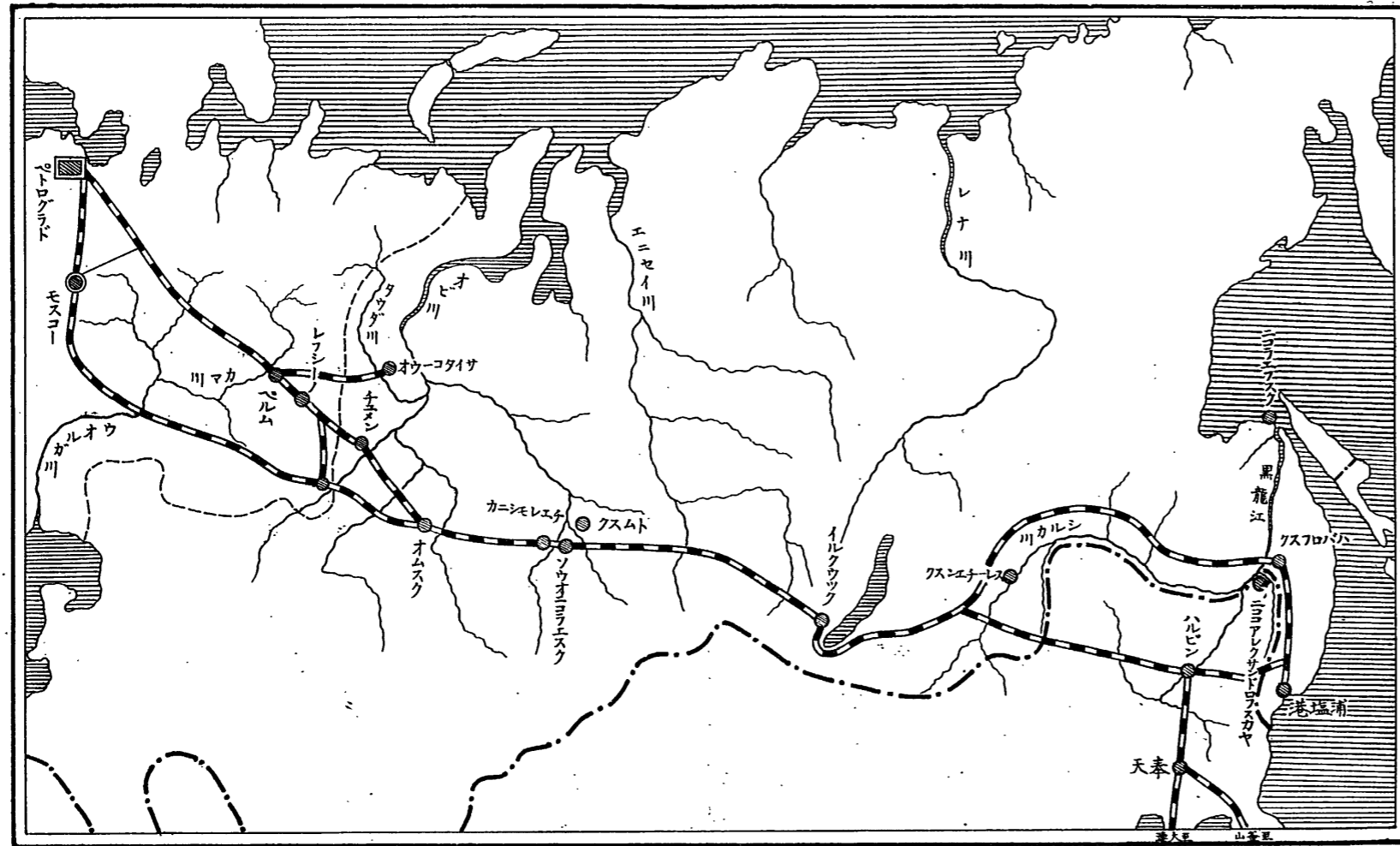
四、茶ニ對スル汽船運賃及汽船會社ノ收得トナ
ルヘキ積卸料金ハ國際聯絡交通事務管理局
長ヨリ通知アリタル額ヲ徵收シ他ノ貨物ニ
對シテハ連帶運輸參加汽船會社ニ於テ定ム
ル所ノ額ヲ徵收スルコト(全員可決)

五、本連帶運輸ハ露國鐵道貨率規則集ヲ以テ發
表シタル日ヨリ一週間ヲ經テ實施サルヘキ
コト(全員可決)

六、本連帶運輸ニ依ル規程ハ黑龍、烏蘇里兩鐵道

290180

浦潮斯德—ウーガル河間水陸連帶運輸経路略圖



REEL No. 1-1187

0395

露國時事

英、コルニ口ヲ將軍政府反抗ノ影響

總軍司令官「コルニ口」將軍ハ現政府ニ對シ内閣ノ授受ヲ要求シ謀及テ企圖セシテ以テ政府ハ「コルニ口」將軍ノ總軍司令官ヲ免シタルコトハ既ハ諸新聞ノ記セル所ナルカ之ニ關聯シテ發セラレタル檄文ハ概ネ次ノ如シ

九月十日陸海軍大臣「ケレンスキ」ハ陸海軍軍人ニ同日首相「ケレンスキ」ハ鐵道勤務者ニ同日全露鐵道委員會ハ鐵道勤務者ニ同日「ベトクムラード」軍管司令官ハ「ベトクムラード」

五

ト市民ニ同日全露回々教徒代表委員會ハ回々教徒タル陸海軍人及一般教徒ニ九月十一日全露勞兵及農民中央執行委員ハ全露國民ニ右檄文ノ内容ハ大差ナキモ要スルニ革命並臨時政府ニ反抗シ或ハ舊制度ノ復活ヲ希望スル「將軍」ノ命令ヲ遵奉スルコトヲ臨時政府ニ信賴シ其ノ命令ニ從フヘキニアリ

以上ノ命令並檄文ニ徵スルニ「將軍」ノ勢力ノ從來如何ニ擴大シアリシヤ並之ニ對スル臨時政府ノ戒心ノ度ノ如何ニ強大ナルヤヲ察知スルヲ得ヘシ

以上ノ事變ニ關連シ哈爾賓ニ如何ニ及響セシ
マテ知ルノ参考タルヘキ諸件ヲ掲クルコト次
ノ如シ

一、哈爾賓新聞ハ事件突發以來是等ノ命令及檄
文ノ全文ヲ掲載シ尚「ウオースチゲース」紙ハ「
將軍ノ非行ヲ批難セリ

ニ「ホルワツト」將軍ハ剛監督官ノ名ヲ以テ次ノ
訓示ヲナセリ

各市民並鐵道従事員ハ總テ黨派的觀念ヲ
捨テ附屬地内ニ於テ又自己ノ任務ニ於テ
能ク秩序ヲ保テ吾人ノ事業ニ對シ最大努

ニ

力ヲ為サソコトヲ希望ス
内露國ノ中心ヲ遠ク離レ外列強ト近接セ
ル吾人ハ只此ノ方法ノミニ於テ祖國ニ十
分ノ貢獻ヲ為シ得ヘシ

三、哈爾賓執行委員會ハ各政黨團體代表者ヲ召
集シ會議ヲ催フシ各地方ニ起リ得ヘキ及革
命運動ノ出現ヲ豫防スヘク茲ニ臨時革命委
員會ヲ創設スルニ決シタリ

同會ニハ選舉ノ結果執行委員會ヨリ「オウリ
フオーウ」以外六名社會革命黨ヨリ二名鐵
道團體ヨリ五名軍隊ヨリ「ニューケン」外五名

社會共和黨二名ヲ委員トシ委員中ヨリ五名ノ實行委員ヲ選出シタルカ右會合ニ依リ決議シタル事項ハ左ノ如シ

一、本會ノ會議ノ内容ハ秘密トスルコト

二、及革命運動ニ関スル臨時報道等ハ特別ニ

配布スルコト

三、警報事務ニ就キ軍隊ヲ呼出スハ勞兵會幹事ノ指令ニ依ラサレハ行フコトヲ得ス

四、前警察署長ブオンアリノリド中佐及憲兵隊長外三名ノ憲兵將校ヲ拘引スルコト(此ノ

決議後直ニ「フォンアリノリド中佐「ゴルゴ」

憲兵隊長及「ホカスト」大尉「シュエトスレフト」

大尉ハ拘引セラレタリ)

五、露都ニ於ケル最近ノ事情ヲ説明シ且軍紀

ヲ徹底的ニ嚴守セシムル為會員ヲ軍隊ニ

派遣スルコト

六、軍隊内ニ特別當直ヲ置クコト

七、勞兵會ノ特別ノ許可ナクシテ軍隊内ニ於

テ演説ヲ為スコトヲ禁ス

八、軍司令部旅團司令部中央電信局監獄ニ對

シ特別委員ヲ派スルコト

四、九月十二日ヨリ警察兵ヲ増加シ市内騎馬

巡邏ヲ開始セリ

五、哈爾濱市鐵道勤務員及勞動者同盟會執行委員ハ臨時會ヲ設ケ及政府ノ企圖ニ對シ秩序保持ノ問題ヲ討究セリ

以上ノ如ク今日迄ノ經過ニ徴スルニ上下等リテ及政府運動防止ニ努カスルノ傾向顯著ニシテ未ダ何等騷擾ノ發生ヲ見ス元來「將軍ハ常テ支那公使館附武官並哈爾濱軍隊ノ長トシテ在勤ノ經歷ヲ有スル為哈爾濱露人間ニハ其ノ手腕ヲ認識セラレアルカ今回ノ及譽ニ對シテハ固ヨリ何人モ表面之ヲ稱賛スル者ナシ然レ

トモ若干ノ露人間ニハ密ニ同將軍ニ同情ヲ寄スルモノアリト察スヘキ理由アリ唯輿論ニ責メラルルヲ恐レ沈黙シアルモノト認メラル

290185

本書發送先

関東都督府民政官 同 警務總長 関東憲兵隊長
 外務次官 参謀次長 陸軍次官
 朝鮮總督附武官 朝鮮駐劄軍總隊長 朝鮮駐劄憲兵隊長
 支那公使館附武官 坂西少将 支那駐屯軍司令官
 青島守備軍参謀長 中支那派遣隊司令官 松井中佐
 臺灣總督府陸軍参謀長 旅立守備隊司令官 第七師團参謀長
 滿洲鐵道株式会社理事長 長春領事

大正六年十月二日 接獲

駐務高

第課

五

海軍報 第千七百四號

大正六年十月一日

海軍軍令部

第10707號



露國電報 (九月二十五日發)

元陸海軍大臣代理 サグイノゴフ氏ハ全コソツクニ代
表會議ニ於テ發表スレテ曰ク

290186

コ地ニロフ將軍ハ誠實ナル愛國者ニシテアハ同氏ト
全然同意見ナリシモ其ノ實施上一致セザリシナリ
予ノ社會主義ハ何等變化ナク終始一貫セルモ獨
軍ハ破竹ノ勢ヲ以テ侵入セル今日此主義ヲ海軍施
セントスル者ハ是レ國家ノ敵ナリ單獨媾和ハ露國
ヲシテ更ニ恐ルキ日本ヲ敵トスルニ至ラシムヘド
ニ勞兵會議ハ一人多數ニテテノ事項ヲ決議セリ
A) 私有土地ヲ取上テ直ニ之ヲ下級人民ニ分配スルコト
B) 一般媾和ヲ全世界ニ宣ハスルコト
C) 商工業及其ノ製品ノ管理方法ヲ新設スルコト
D) 資産家ニ重稅ヲ課スルコト
E) 戰爭ヨリ得タル利益ハ沒收スルコト

三、海軍大臣ハ勞兵會議ニ於テ波亂的艦隊ノ水兵ハ
其上官將校ヲ信任セザル艦隊極メテ困難ナル境
遇ニ在リ此ノ難關ヨリ救済スルカ為テ勞兵會議ノ助
力ヲ要ストテ其援助ヲ哀願セリ
四、芬蘭ニ於テ又、議會ハ自由召集ヲ容ル行セラルベシ
トノ報アリ
五、宗務院長辭職ス原因ハ政府カ唯社會黨員ノ指
示ニ服從シ其ノ成立當時約セシ政策ヲ決行シ

290187

ハサルト情激セルニ在リト
六、總指揮官輔佐官千エシムソフ
官ニ轉任ス
將軍ハ北方軍指揮

(続)

REEL No. 1-1187

0402

290188

第10708號



大正六年十月二日 接獲
海軍報第一七二五號

第課 (個) 結



五

大正六年十月一日

海軍軍令部

西路軍電報 (九月廿六日發)

前總參謀長アレキセフ將軍カ其辭職理由トテ語ル
ト傳ヘラルル所ノ要領カ如シ

一露軍ハ崩潰シ今ヤ露國ニ軍隊ナシ且々獨軍カ地方
戰場ニ新進撃ヲ企圖スルハ死ト確實ニテ之ニ對シ
迅速ニ軍紀振肅ノ必要アルモ拘ラス露都ニ於テハ
個人ノ自由ヲ基礎トスル軍隊改革法ヲ採用セリ
コルニコフ將軍ハ鞭ト小銃彈丸ヲ以テ軍紀振肅ヲ謀
リト稱スル者アレトモ是虛言ナリ同將軍ハ本件ニ関シ
極メテ良好ナル多數ノ計劃ヲ有リ今ヤ予カ力ニ露
軍ヲ恢復セラルコトヲ得ス

二コルニコフ將軍事件ニ関シ同將軍ヲ叛逆者ト稱スル其
決行セシ行動ハ國民多數ノ後援ヲ有セル根柢深キ正
當ノ行為ナリ又コルニコフ將軍ヲ野心家ト云フモノアルモ
其實然ラス予ハ本事件ノ結果如何ニ拘ラスコルニコフ
將軍及其關係者ハ真個愛國ノ志士タルヲ確信ス
即同將軍ハ露國政權動搖ヲ為將ニ滅亡セトスルヲ
見断然一之ヲ救済セトシタル者ニテ自身政權ヲ掌握
握セト企圖セルニアラス執政官ノ誰ナルヤヲ問ハス只
確半トシテ動カスベカラサル政府ノ確立ヲ要求セルモ
ノナリ故ニ本事件ヲ明ラカニセトセバ廣範圍ノ政治
的裁判ヲ必要ト認ム然ルニ何等司法的智識ヲ有
セルモ宜クヤ集メテ三士官三兵卒ヨリ成ル軍法會議ニテ

290189

(一七五ノ二)

之ヲ裁判セド欲ス 其裁判ノ不公平ニ終ルヤ明ラカナリ
 下カ良心ハ斯クノ如キ状況ノ下ニ留職スルヲ許サス
 三 將校ノ境遇ヲ見ルニ彼等ハ自若トシテ敵彈ニ中リ斃
 レツアルノミナラス味方兵卒ノ為横死ヲ遂ケワツアリ
 之ガ續行ヲ絶對ニ防止セサルヘカラス 今テヤマヤカ力及ハス
 是理由ノ三ナリ

(終)

290190

10709

要目付了

大正六年十月二日 接受

海軍報第一七二六號

警務局

第三課

船務

船務

五

大正六年十月二日

海軍軍令部

露國電報(九月廿六日發)

文武官実名ノ異動

新任官職	旧地位	身分	氏名	備考
芬蘭總督	前大藏大臣	軍令部長 海軍少將	ネクラソフ	ケレンスナリニ對シ 遂ニ復職ヲ重賞 レタル者ナラン
臨時第一次官 兼務	大本營海軍 参謀長(免職)	海軍中將	カフニスト	アレキセーフ將 ト共ニ臨時政府 ノ事務ニ服ス
南方軍指揮官		陸軍中將	マクレモフ	
南方軍参謀長		陸軍中將	ワロスチエニコ	
中央軍参謀長		陸軍中將	ストゴフ	
		陸軍中將	ワリテル	

尚ホ前海軍第一次官ズウタロフ大佐ハ在東京露國大使館
 附海軍武官タルヘシト、説アリ

(殿)

秘

大正六年十月二日 接
參謀第二六四六號

駐務局

第課

五

大正六年十月一日

參謀本部

歐洲戦争 其二八一〇

露都發電報 九月廿八日發

露都ニ於ケル民主派ノ大會ハ昨二十七日開催セラレ政府ヨリハ
ケレンスキー及陸軍大臣出演セリケレンスキーノ演説ハ主トシテカルニコ
ノ事件ニ對スル自己ノ態度ヲ辯明セルモノニシテ幾多過激派ノ妨
碍ヲ受ケレモ會場大部ノ同感ヲ惹起シ大体ニ於テ信任ノ堅キヲ表
明セリ陸軍大臣ノ演説ハ新理想ニ基ク軍隊ノ改革案ニシテ從來諸所
ニ於テ述ヘタル所ト大差ナシ尙社會黨領袖及過激派代表者モ演
説セリ會議ハ尚二三日続行スルヲ以テ未タ政局ノ前途ヲ速断シ
難キモ大体ニ於テ此大會ニ於ケル過激派ノ勢力ハ案外少數ナルヲ以
テ從來穩和派ノ主張スル所ヲ貫徹シ得ヘク從テ内閣組織ハ依

然聯立的ニ解決セラルナラン唯立憲民主黨ニ限リ入閣ヲ許サルノ
曉ニハ果シテ非社會黨中ヨリ民主派大臣ト席ヲ共ニスルヲ諾スルモノ
ルマハ疑ハシ

露國外相ハ羅馬法王ノ平和提議ニ對シ反駁的ノ意見ヲ發表セリ又露
西亞官民ハ最近行ハレタル独逸カ露西亞ヲ犠牲トスル條件トシテ佛國
ト媾和スヘントノ風説ニ對シ危惧ノ念ヲ有セシカ最近英佛政府之
ニ對スル回答殊ニ在露西亞佛國大使ノ宣言ニヨリ佛國ハ露西亞ヲ捨ツル
コトナク飽マテ協同ノ意アルコトヲ詳知シ大ニ安堵セル模様アリ此風
説ハ露西亞社會ニ甚タ刺戟ヲ與ヘタルモノニシテ爲ニ社會派ノ對外
政策殊ニ對戰爭觀モ幾分緊縮セルノ感アリ其他諸情報ハ獨軍
ガドウヒンスクノ附近ニ攻撃ノ準備中ナルヲ傳フ同地附近第五軍ニ
在ル者ノ言ニ依ルモ同軍ハ近ク敵ノ攻撃ヲ豫期シアリテ既ニ大
部ハ撤退準備終レリ軍隊ノ素質亦現線ノ保持覺束ナキ
カ知シ

附屬書類添附

大正六年十月四日

駐政務局

第三課

290192

26759

第 門

外事彙報 第十

82

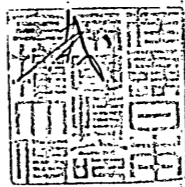
本局事務(控)

改公廿一五七

大正六年九月十七日

在籍

特余官推之使子爵内田康



外務大臣法學博士子爵本野印殿

○コソコソノ事件(同)新聞切抜

紙文送付ノ件

(大正六年九月廿四日附報)

元露軍艦司令官「コソコソ」事件(同)新聞切抜

拙電「コソコソ」事件(同)新聞切抜

茲以某台將年暮之政行劇ヲ發表當他諸新聞

同掲載セリ之故報告文、若余余台等ノ秘録

在露國日本大使館

平場書記生蒐集雜誌「七」ノ一頁所載別命「第」文

ノ通「第」及報告文同、此等新聞掲載ノ事、後中道

ヲ存見

一露國總軍司令官ニコロフ大將、政權引渡
要求、對之總理大臣ケレンスキー、告第一

八月二十日(九月一日)將軍ニコロフ、下院議負リ、オロフ、予
ノ許、普ニ將軍ニ於テ國政施行、為新政府、組織ス、
オロフ、臨時政府ヲ軍民統治、全權ヲ引渡、サケ、コト
要知、議負、リ、オロフ、其、全權、使、其、事、其、後、予、ト、コ
ル、コ、予、將軍、ノ、直接、通、話、依、リ、事、其、尤、事、確、ク、予
臨時政府、右、國、務、盡、傾、ク、予、國、亦、報、謝、ノ、時、態、ヲ
利用、シ、既、得、ノ、革命、事業、之、反抗、セ、レ、ト、ス、ル、者、ト、認、祖
國、自由、並、ニ、共和、ヲ、擁護、ス、ル、為、予、全、權、ヲ、奉、出、シ、急
速、斷、手、ス、ル、處、置、ヲ、執、リ、苟、ク、國、權、ヲ、觀、視、セ、レ、ト、シ、且
革命、ヲ、樹、立、セ、ル、國民、ノ、賦、タ、ラ、レ、ト、ス、ル、者、ノ、企、圖、ハ、之、ヲ、其

在露國日本大使館

抵底、ヲ、刈、除、ス、ル、必要、アリ、ト、認、メ、キ、リ

國內、自由、及、秩序、維持、必要、ト、盡、意、方、法、同、シ、ニ、且、
國民、之、周、知、ル、キ、モ、取、敢、ス、左、ノ、會、合、ヲ、設、ス

(一) 將軍、ニコロフ、之、命、ニ、總、軍、司、令、官、ノ、職、ヲ、現、北、軍、司
令、官、ケ、レ、ム、ホ、フ、ス、キ、リ、將、軍、豫、メ、シ、ケ、レ、ム、ホ、フ、ス、キ、リ、大
將、ヲ、臨時、總、軍、司、令、官、ト、シ、依、然、ト、ス、コ、フ、ニ、市、面、ヲ、
シ、ム

(二) 下、ト、ロ、ク、ラ、ト、市、及、其、地方、戒、嚴、令、ヲ、施行、セ、ム
市民、之、復、國、ノ、必要、ト、依、リ、各、自、平、靜、秩、序、維持、
努、力、シ、

陸海軍人、ノ、克、己、ヲ、旨、ト、シ、又、自、其、義務、ヲ、全、ク、外、敵、
對、シ、祖、國、ヲ、擁護、ス、ル、以、テ、念、ヲ、為、シ、
總理、大臣、陸海軍、大臣、ケ、レ、ン、ス、キ、リ



自由を執る軍司令部に事あるに何等の危険ナキ事
 折るに保証三州より而して事ト其自由を保証シ力アル
 我國民ノ是明也將事ノ導クハ正確ナル國防内閣
 ヲ組織スルに好カシク

一九二一年七月八日(九月) 陸軍司令部に在りて

陸軍司令部に在りて

新世露都軍務知事ノ市民ニ告ぐ

致意告文

敵に我前線ヲ突破シリガ敵軍ノ手中ニ歸シ之は此班
 者ノ時ノ際ニ將軍ノコレニコトノ叛意ヲ起シテ臨時政府
 及革命ノ抗ニ敵ニ在リ担ヒ之ニ至リ
 陸海軍大臣事務取扱ハ事ノ新ニ露都軍務
 知事ニ就職スルハ若シ善ク市民ノ公事

在露國日本大使館

市民ハ軍務ヲ持セ其可ナク、苟ク之革命ニ背反スル
 者、其何人ナリ同ノ之ヲ救テ買國者ト見做ラシ
 市民ノ政府が祖國及自由防衛ノ為一切必要ノ手段
 ノ執リ遺漏ナキヲ知ラシ

一九二一年七月八日(九月) 陸軍司令部に在りて

新世露都軍務知事ノ市民ニ告ぐ

致意告文

此革命ノ状態ニ在リ露國ノ革命ハ俄氏鐵道員ノ
 手中ニ在リ俄氏ノ當ラ旧政府ヲ瓦解セシメ之ノ在リ
 以テ折角成功セシ露國革命ノ反抗セシメ之ノ革命
 機軸者ニ抗シテ絶シテ革命ヲ維持セシメ之ノ革命
 コレニ對シテ其後セシ革命令ニ即之リ復行スルニ要スル
 各自負醒自之重、露國人民、忠望ヲ以テ立テ臨時



政府ノ希望貫徹ノ政場力セヨ

總理大臣、ケレニスキ

六、労働大臣ノ労働者、思ハク

教育者ノ文

露國ノ労働者ヨ、此國亦艱難ノ時、奮リ將軍コソ
コソハ臨時政府ヲ抗シ人民ノ革命ニ及ニテ奮リ彼
戰隊ヨ一部聯隊ヲ撤回シ革命ノ心府モ露都
ヲ背カサシ去リ而シテ該聯隊ハ革命ノ事業ヲ潰滅
セリト同胞諸君ニ狼火ヲ舉ケテ今ヤ露都、向テ
進ニマテリ、又其他ノ陸海軍ハ豈ニ臨時政府ニ
對シテ革命側ニ在リ

在露國日本大使館

若輩ヨ傷ケトス此叛逆者ノ廢滅、全力ヲ盡ス
一キハ予ノ信ニ疑ハズ所ナリ

臨時政府ハ諸氏ノ莫大ニ労働軍及政府ニ信賴ス
革命軍隊ノ支持ニ懈スリ犯罪的一揆ノ蜂起
根柢ヨリ覆テ自由古國民其基礎ヲ確守不更域
ニ進シ以テ祖國ヲ建國源泉ノ成立、海軍等ニ全力
ヲ注クテ革命國民中人多ク是身賊手ニ奪セラル

労働大臣、不コヘルフ

七、露都軍管區司令官、漸成軍

ニ思ハク

臨時政府ノ希望ニ依リ予ハ軍管區司令官ノ職ヲ去リ
今時、諸氏即露都漸成軍ト雖、コトナレリ、予ハ

予、此の如き出来事、若し其の如くならざれば、自由の確立は、為諸
氏、其の誘導するに、努力の結果、司各の幹部、協力し相俟つ
諸氏、代表機關、支持、盡心、其の効果を、決て、徒ら
ナラザリシ。

予、直接關係あり、存せし軍隊、下轄し、こゝより、革命、及
るに、如き、行動、其の、名、而、竟、執、こり、こり、同、心、同、力、を、
諸氏、其の、誘導、する、に、効、力、あり、諸氏、が、不、斯、く、如、き、要求
リ、する、に、際、し、て、容、格、ナ、シ、之、を、排斥、壓、伏、の、殺、害、ト、シ、テ、
祖、國、及、自由、權、を、擁、護、の、牆、壁、ト、シ、セ、ル、に、キ、リ、候、ふ、者、ナ、リ、
へ、ト、口、カラ、ト、軍、官、運、送、司、官、所、在、者、向、つ、テ、コ、フ、ス、キ、ー、

ハ、予、此、會、ノ、軍隊、之、思、を、其、書、ニ、
將、校、及、兵、ノ、軍、諸、君、ヨ、

在露國日本大使館

將軍、此、口、ノ、革命、及、之、防、衛、に、付、抗、し、一、擧、げ、起、せ、り
彼、ノ、帝、政、ヲ、復、興、シ、人民、ノ、土地、自由、ト、シ、潰、滅、ス、ル、期、セ、り
彼、此、犯罪、的、行、爲、ノ、為、獨、逸、人、我、等、ノ、同、教、之、祖、國、ヲ、
敵、ニ、シ、テ、シ、ト、ス、者、ナ、リ、
將、校、兵、卒、諸、君、ノ、革命、及、祖、國、ノ、諸、君、其、其、義務、ヲ、
履行、セ、テ、リ、抗、し、已、ス、大、衆、ノ、体、ト、シ、テ、土地、自由、ノ、
權、を、擁、護、シ、為、シ、奮、起、セ、ヨ、將、軍、ノ、此、ノ、命令、ハ、一、又、之、ヲ、
傾、聴、ス、ル、勿、シ、而、シ、テ、防、衛、政府、ト、兵、卒、官、僚、者、農、民、
中、央、官、府、事、務、員、等、ノ、命令、ヲ、一、服、從、シ、互、ニ、相、結、束、セ、
ヨ、今、外、敵、ノ、露、部、ヲ、防、衛、シ、テ、兵、卒、隊、ノ、敢、シ、テ、其、力、
ヲ、竭、ス、ル、事、ナ、シ、テ、可、ク、外、敵、ノ、對、シ、テ、國、土、防、衛、之、急、ヲ、今、
日、諸、君、將、校、兵、卒、ノ、人、ノ、體、格、精、神、中、實、重、テ、挑、戰、事、業、
ニ、加、担、セ、ル、更、ニ、細、心、徒、此、事、ノ、一、將、校、又、兵、卒、ノ、對、シ、テ、

裁懲罰に之リ辭す可カス臨時政府及中央委員會ハ
 豫謀摘發ニ由リ年俛リ盡シ私入ノ敵罰ニ處セシニ
 兵卒擄殺傷名ニ至リ親者トナリ斯ニテ諸君ハ土地
 自由善共和ヲ救ヒ軍隊ノ民ヲ救國ヲ助ケ今時ニ自巳ヲ
 救ヒテ無益ノ犠牲者トシテヤサシムルコトヲ得ルニ
 此見地ニ由リ兵卒ヲ勸者善ニ農民中米多負會ハ
 善ヲ擄殺兵卒擄殺者皆其ノ咎ニ至リ自陽意ト西ノ
 相親ニ以テ祖國、業年善臨時政府ヲ推護シ革
 命人民ノ反抗ス救逆者掃蕩盡方セラシムコトヲ以テ
 セシム

在露國日本大使館
 全露國農民代表會執行委員層

在露國日本大使館

九、革命會ノ執道負、善ニ爲テ苦シク
 將軍、コレニ至リテ祖國ノ反ニ革命、救ヒテ自ラ革命、
 裁者ヲ以テ大膽ニ臨時政府ノ反抗セシム
 彼ノ犯罪的心、則同胞戦争ヲ起シテ露國軍隊
 ノ絶滅ノ敵、國境ヲ開放シ革命ヲ一敗ニ達シシ
 ノリコトヲ渴望シ其軍隊ヲ露都ニ向ハシメ、ヤリ、
 臨時政府及兵卒ヲ勸者代表會執行委員會ハ此一
 擄ノ首魁ニコレヲ征服ス爲シ既ニ南高ノ中俛リ
 盡セリ民至露都露都兵卒及兵卒業以自一擄
 革命ノ味ニ臨時政府ヲ救ヒテ首都ヲ奪回カサハトス
 革命ヲ有德セシメトリ期ヤリ但ニ無益ニ擄殺ヲ辭
 ケンヤヤヤハ善ニ諸君執道負ノ行動如何ニ係リ
 諸君能ク止其職務、中心善ニ諸君組織セシ委員

余ハ露都ニ在リ革命ノ軍隊ノ行動ヲ嚴重ニ監視シ
 隨時中央革命軍執行會ニ報告シテ政府及革命軍
 ノ指令ニ遵ヒテ軍隊ノ行動ヲ阻止シ又ハ諷得シテ
 革命軍ノ行動ニ妨グ
 祖國及革命軍ガ諸君ノ忠誠ヲ要求スルニ時
 奮テ革命軍ヲ露國ノ中央革命軍ニシテ表スル
 コレヨリ革命軍ニシテ革命軍ノ命令ニ之ヲ復行スル
 要ム
 吾人ヨリ何事革命軍ニシテ之ヲ復行スルニ要ム
 革命軍ノ行動ニ時時政府及革命軍ノ中央革命軍
 軍ニ服スル

革命軍執行會
 中央革命軍執行會
 革命軍執行會

在露國日本大使館

大總理大臣及參謀總長陸海軍人

此ノ名義

聯軍ノ此ノ行爲ニ著シク軍界ノ秩序ヲ攪
 亂セルヲ以テ之ヲ整理スルニ爲テ革命軍執行會
 今度軍隊内ニ於テ政治問題ヲ討議スルヲ禁ム
 軍力
 充實ニシテ國難ヲ救済シ唯一ノ要素トシテ之ヲ
 總テ革命軍執行會ニシテ其職務範圍ノ内
 一ニ行動スル又ハ其長官ノ職務執行ヲ妨グ
 事
 三 幹部ノ命令ニ時ニ故障ナラザルニシテ
 四 其長官ヲ擁護スルニシテ革命軍執行會
 一ニ開始スルニシテ革命軍執行會
 一ニ開始スルニシテ革命軍執行會

Правительственное сообщение.

«26-го августа ген. Корнилов приехал на имя чл. Г. Думы Владимира Николаевича Львова с требованием передачи временным правительством генералу Корнилову всей полноты гражданской и военной власти с тем, что имя, по личному усмотрению, будет составлено новое правительство для управления страной. Действительность предложения члена Гос. Думы Львова сделать такое предложение была подтверждена затем генералом Корниловым при разговоре со мною по прямому телефону.

Усматривая в предъявлении этого требования, обращенного в мое лице к Временному Правительству, желание некоторых кругов русского общества воспользоваться тяжелым положением государства для установления в стране государственного порядка, протиснувшего себя заведением революции, — Временное Правительство признало необходимым: для спасения Родины, свободы и республиканского строя УПОЛНОМОЧИТЬ МЕНЯ ПРИНЯТЬ СРОЧНЫЕ И РЕШИТЕЛЬНЫЕ МЕРЫ, ДАБЫ ВЪ КОРНЬ ПРЕСЪТЬ ВСЯКИЯ ПОПЫТКИ ПОСЯГНУТЬ НА ВЕРХОВНУЮ ВЛАСТЬ ВЪ ГОСУДАРСТВѢ И НА ЗАКОНАВНІЯ РЕВОЛЮЦІОННОЙ ПРАВА ГРАЖДАНЪ.

Все необходимые меры к охранѣ свободы и порядка въ странѣ мною принимаются, и о такихъ мѣрахъ население своевременно будетъ поставлено въ извѣстность.

Вместѣ съ тѣмъ приказываю: 1) ГЕНЕРАЛУ (КОРНИЛОВУ) СЛАТЬ ДОЛЖНОСТЬ ВЕРХОВНАГО ГЛАВНОКОМАНДУЮЩАГО ГЕНЕРАЛУ КЛЕМБОВСКОМУ, главнокомандующему арміею сѣвернаго фронта, протѣгающаго путь къ Петрограду, ГЕНЕРАЛУ КЛЕМБОВСКОМУ ВРЕМЕННО ВСТУПИТЬ ВЪ ДОЛЖНОСТЬ ВЕРХОВНАГО ГЛАВНОКОМАНДУЮЩАГО, оставаясь въ Псковѣ.

2) ОБЪЯВИТЬ ГОРОДЪ ПЕТРОГРАДЪ И ПЕТРОГРАДСКІЙ УѢЗДЪ НА ВОЕННОМЪ ПОЛОЖЕНІИ СЪ РАСПРОСТРАНЕНІЕМЪ НА НЕГО ДѢЙСТВІЯ ПРАВИЛЪ О МѢСТНОСТЯХЪ, ОБЪЯВЛЕННЫХЪ СВОЯЩИМИ НА ВОЕННОМЪ ПОЛОЖЕНІИ (Св. Зак., т. II, Общ. Учр. Губ., ст. 23 апр. изд. 1892 г., с продолж. 1912 г.).

Призываю всѣхъ гражданъ къ полному спокойствію и сохраненію порядка, необходимого для спасенія родины.

Всѣхъ чинъ арміи и флота ПРИЗЫВАЮ КЪ САМОТВЕРЖЕНІЮ И СПОКОЙНОМУ ИСПОЛНЕНІЮ СВОЕГО ДОЛГА ЗАЩИТЫ РОДИНЫ ОТЪ ВРАГА ВЪШНЯГО.

Министръ-предсѣдатель, военный и морской министр А. КЕРЕНСКІЙ.

Воззвание ген. Корнилова

Въ сообщеніяхъ Совѣта Р. и С. Д. сообщены слѣдующія воззванія генерала Корнилова:

Генералъ Корниловъ разослалъ слѣдующую телеграмму:

МОСКВА. Изъ ставки верховнаго главнокомандующаго.

Передается въ Петроградъ для доставленія военному министру, по линии всѣхъ желѣзныхъ дорогъ, всѣмъ начальствующимъ лицамъ и дорожнымъ комитетамъ, «Русскому Слову» и другимъ газетамъ и циркулярно по городамъ Россіи и начальствующимъ лицамъ и копиямъ газетамъ.

Телеграмма министра-предсѣдателя за № 4663 во всей своей первой части является еллонной ложью. Но я послалъ члена Г. Думы Вл. Львова къ Временному Правительству, а онъ пріѣхалъ ко мнѣ, какъ посланецъ министра-предсѣдателя, тому свидѣтель членъ первой Госуд. Думы Ал. Аладинъ. Такимъ образомъ совершилась великая провокація, которая ставитъ на карту судьбу отечества. Русскіе люди, великая родина наша, страдаютъ, близокъ часъ кончины. Выступайте открыто. Я, генералъ Корниловъ, вѣрю, что Временное Правитель-

ство подъ давленіемъ большинства болшевиковаго большинства совѣтовъ дѣйствуетъ въ пользу согласія съ планами германскаго генеральнаго штаба и одновременно съ предосторожностью высадкой вражескихъ силъ на Рижскомъ побережьи убиваетъ армію и потрясаетъ страну. Тяжелое сознаніе неминуемой гибели страны повелеваетъ мнѣ въ эти грозныя минуты призвать всѣхъ русскихъ людей къ спасенію умирающей родины. Все, у кого бьется въ груди русское сердце, все, кто вѣритъ въ Бога, охраняйте, молитесь Господу Бога о явленіи величайшаго чуда: чуда спасенія родины! Я, генералъ Корниловъ, съ крестами и казака, заявляю всѣмъ и каждому, что лично мнѣ ничего не надо, кромѣ сохраненія великой Россіи, и я иду довести народъ путемъ победы надъ врагомъ до Учредительнаго Соборанія, которое само выберетъ укладъ своей государственной жизни. Предать же Россію въ руки ея исконнаго врага — германскаго племени и сдѣлать русской народъ рабомъ. Изъясните я по въ силахъ и предпочтѣю умереть на полѣ чести и брани, чтобы не видѣть позора и срама русской земли. Русскіе! саротъ въ твоихъ рукахъ жизнь твоей страны.

Генералъ Корниловъ.

Обращение к народу

(Циркулярно по всем городам и линиям
ж. д. 1/9/17)

290202

Я, Верховный главнокомандующий, ген.
Корнилов, перед лицом всего народа
объявляю, что долг солдата, самопожерт-
вование гражданина свободной России и
беззаветная любовь к родине заставили
меня в эти тяжелые минуты битвы оте-
чества не подчиниться приказанию Времен-
ного Правительства и оставить за собою
верховное командование народными армиями
и флотом. Поддержанный в этом реше-
нии всеми главнокомандующими фронтами,
я заявляю всему народу русскому, что пред-
почитаю смерть устраниению меня от
должности верховного главнокомандующа-
го. Истинный сын народа русского всегда
погибает на своем посту и несет в
жертву родине самое большое, что он
имеет—свою жизнь. В эти поистине
ужасающие минуты существования отече-
ства, когда подступы к обильным столам
почти открыты для победного шес-
ствия торжествующего врага, Временное
Правительство, забывая великий вопрос
самого независимого существования страны,
кидает в народ прозрачный страх
контр-революции, которую оно само сво-
им неумением управлять, своей сла-
бостью во власти своей нерешительностью
в действиях вынуждает к скорейшему
волеизъявлению. Не жалею кровному слезу
самого народа, всю жизнь свою на глазах
всех отдавшего на беззаветное служение
—ему ли не стоять на страже великих
свобод великого будущего своего народа.
Но путь будущего не в слабых безволь-
ных руках. Истинный враг берет
его подкупа и предательства. Обрета-
ющийся у нас в страхе, канту себя
дома, несет гибель не только свободе,
но и существованию народа русского. Очи-
стись души русские от безумия, осмелитесь

и взгляните в бездонную пропасть, куда
стремительно идет наша родина. Избегая
великих потрясений, предупреждая како-
либо пролитие русской крови в междудо-
вой брани и забывая все обиды и ре-
вности, я перед лицом всего народа
обращаюсь к Временному Правительству
и говорю: призывайте ко мне в станку,
где свобода наша и безопасность обеспечены
честным словом, и совместно со
мною выработайте и образуйте такой со-
став правительства народной обороны, ко-
торый, обеспечивая свободу, ват бы на-
водь русский к великому будущему, до-
стойному могучего свободного народа.

Верховный главнокомандующий генерал
Корнилов. № 6442, 28 августа 1917 г.
Ставка

日本大使館

**Обращение к населению военного гене-
рала-губернатора**

Петроградский военный генерал-губер-
натор Б. В. Савицкий обратился к на-
селению столицы со следующим воззва-
нием:

«В грозный для отечества час, когда
противник прорвал нашу фронт и пала
Рига, генерал Корнилов добился успеха
протруз Временного Правительства и ре-
волюции и стал в ряды их врагов».

Я, управляющий военными и морскими
министерствами, вступая в должность
военного генерал-губернатора города Пе-
трограда, объявляю населению, что оно
должно остаться спокойным. Со всеми
послающими на завоевания революции,
кто бы он ни был, будет поступлено
как с разбойником. Пусть население Пе-
трограда знает, что приняты все меры
для защиты родины и свободы».

Воззвание А. Ф. Керенского

«Мое воззвание, судьба России в
ваших руках. Вы должны отстоять са-
мостоятельную революционную Россию от
чуждых посягательств военной диктатуры.
На одно приказание, исходящее от ген.
Корнилова не должно быть вам поведе-
но. Будьте бдительны и осторожны. По-
литическое единство волею Временного
Правительства, волю самого народа».

Воззвание министра труда

К товарищам рабочим России!

В год тяжелейших испытаний для родины и революции, генерал Корнилов поднял против Временного Правительства и революционного народа.

Сняв с фронта отдельные полки, он двинул их на Петроград, чтобы поработить самое сердце революции. Полки эти приближаются к Петрограду, разжигая пожар гражданской войны и губя дело революции.

Армии всех фронтов и флота остаются верными Вр. Правительству и революции.

Товарищ рабочие. Я уверяю, что вы в час смертельной опасности в тесном единении с революционной армией свободной рабочей поддержкой Временного Правительства сможете справиться с этой тяжелой задачей подавления этого мучителя против народа и его чести. Спокойно оставайтесь каждый на своем посту, за своей работой исполняя свой долг перед революцией и родиной.

Временное Правительство, опираясь на поддержку нашей миллионной пролетарской армии и на верный ему революционный войска, найдет в себе силу, чтобы пресечь в корне поднявшийся преступный бунт, выйти на путь стрелчества в свободной народной жизни и довести страну до Учредительного Собрания, не отдав ни одного из завоеваний революции врагам революционного народа.

Министр труда М. Скобелев.

К всей армии

Товарищи офицеры и товарищи солдаты!

Генерал Корнилов поднял восстание против революции и Временного Правительства. Он хочет восстановить старый строй и лишит народ земли и воли. Ради своей преступной цели он готов открыть фронт германцам и готов предать родину.

Товарищ солдаты и товарищ офицеры!

Революция и родина зовут вас к исполнению своего долга. Встаньте все, как один человек, на защиту земли и воли. Ни один приказ генерала Корнилова не должен исполняться. Подчиняйтесь только приказанию Временного Правительства с центральными комитетами советов рабочих, солдатских и крестьянских депутатов. Сплотитесь дружной семьей вокруг этак. Теперь, когда главный враг угрожает Петрограду, армия должна быть единой, сплоченной и сильной. Теперь в особенности дорожит каждый офицер и каждый солдат, чтобы отстоять родину от главного врага.

В восстании против революции принимает участие ничтожная кучка продажей. Никакие союзы над офицерами и солдатами не должны иметь места. Временное Правительство и центральные комитеты принимают все меры к тому, чтобы раскрыть всех участников, безоговорочно, которые будут подвергнуты заслуженному им наказанию.

Товарищ солдаты и офицеры. Действуйте дружно. Этим вы спасете землю и волю, спасете республику и демократическую организацию армии. Этим вы спасете самих себя и предотвратите ненужные жертвы.

Во имя всего этого центральные комитеты советов рабочих, солдатских и крестьянских депутатов призывают всех офицеров и солдат дружно встать на защиту родины, революции и Временного Правительства от истребителей со стороны предателей, возставших против революции, против народа.

Центральный Исполнительный Комитет Всероссийского Совета Рабочих и Крестьянских Депутатов.

Исполнительный Комитет Всероссийского Совета Крестьянских Депутатов.

Приказ

ген. Васильевского по петроградскому военному округу.

Волею Временного Правительства должность Главнокомандующего упрощена и оставлена вост. войска петроградского округа. Приняв как честь мое назначение, я твердо и неуклонно старался вести вас к укреплению завоеванной свободы. Усилия мои и командного состава при поддержке ваших представительных органов не остались бесплодными.

Я покидаю войска с твердой уверенностью, что никакие попытки к контр-революции, как слева, так и справа, не будут иметь успеха в вашей среде и что бесприлично подавляя все ее проявления вы в то же время, когда это потребует от вас, станете стеной против главного врага для защиты родины и свободы.

Главнокомандующий петроградского военного округа: генерал-майор Васильевский.

ВСЕМЪ ЖЕЛЕЗНОДОРОЖНИКИМЪ СЛУЖАЩИМЪ.

Товарищи, генералъ Корниловъ извѣщаетъ родину и революцію. Онъ объявляетъ себя диктаторомъ и сейчасъ поднимаетъ руку на Временное Правительство.

Рядъ своихъ преступныхъ замысловъ хотѣлъ унтарить въ междоусобищъ русскую армию и открыть границу врагу. Онъ жаждетъ затопить въ ерѣвь революцію и посылать войска на Петроградъ.

Временное Правительство и Центральные Исполнительные Комитеты Совѣтовъ Р. и С. Д. приняли всѣ мѣры для подавленія бунта предателя-генерала. Въ демократическія партіи, всѣ петроградскіе рабочіе и солдаты откликнулись на зовъ революціи и подавить всякую попытку оруженнаго наслія надъ Временнымъ Правительствомъ и столицей. Но отъ жандармовъ, завѣдывающихъ открытіемъ вѣдннею кровопролитіе. Несите неслабко свою службу. И пусть ваша комитеты зорко слѣдятъ за передвиженіемъ войскъ къ Петрограду, патрѣруютъ Центральные Исполнительные Комитеты и Всенародное Исполнительное Комитетъ о задержкѣ войскъ или направленіи ихъ по другому пути.

Принять часъ, когда родину и революцію требуютъ отъ васъ вѣрной службы. Окажитесь достойными сынами революціонной Россіи.

Всѣ прикажи генерала Корнилова должны оставаться бѣзъ исполненія и немедленно сообщатся Центральному Исполнительному Комитету. Слушайте только Временнаго Правительства и Совѣтовъ Р. С. и Кр. Депутатовъ.

Центральный Исполнительный Комитетъ Совѣтовъ Р. и С. Д.
Исполнительный Комитетъ Всероссийскаго Совѣта Крестьянскихъ Депутатовъ.

Приказъ арміи и флоту.

Въ связи съ вѣстунденіемъ генерала Корнилова нормальная жизнь въ арміи сороринено разстроилась.

Для восстановления порядка приказываю:
1. Прократить политическую борьбу въ войскахъ, и обратить всѣ усилія на нашу бесѣую борьбу, отъ которой единственно зависитъ спасеніе страны.

2. Всемъ войсковымъ организациямъ и комиссарамъ встать въ строгія рамки дѣловой работы, лишенной политической нетерпимости и подозрительности, ограничиваясь сферой дѣятельности, совершенно чуждой пылительству въ строгую и оперативную работу начальствующихъ лицъ.

3. Возстановить безпріятственную перевозку войсковыхъ частей по заданіямъ команднаго состава.

4. Безотлагательно прекратить заарестованія начальниковъ, такъ какъ право означенныхъ дѣйствій принадлежитъ исключительно судѣбнымъ властямъ, прокурорскому надзору и образованной мною чрезвычайной судѣбной комисіи, уже приступившей къ работѣ.

5. Совершенно прекратить сѣвціоніе и устраниеніе отъ командныхъ должностей начальствующихъ лицъ, такъ какъ это право принадлежитъ лишь правомочнымъ органамъ власти и отнюдь не входитъ въ кругъ дѣйствій организациі.

6. Немедленно прекратить самовольное форпированіе отрядовъ подѣ, предлогомъ борьбы съ контр-революціонными выступленіями.

7. Немедленно снять контроль съ аппаратовъ, установленный войсковыми организациями.

Армія, выразившая въ эти тяжкіе смутные дни полное довѣріе Временному Правительству и мнѣ, какъ министру-предѣдателю, отвѣтственному за судьбы родины, великимъ разумомъ своимъ должна понять, что спасеніе страны только въ правильной организациі, поддержаніи порядка, дисциплины и въ единеніи всѣхъ между собой.

Къ этому я, облеченный довѣріемъ арміи, зову всѣхъ.

Пусть совѣсть каждого проснется и подталкиваетъ каждому его великій долгъ передъ родиной въ этотъ грозный часъ, когда рѣшается ея судьба.

Какъ верховный главнокомандующій, я требую отъ всѣхъ начальствующихъ лицъ, комиссаровъ и войсковыхъ организаций неуклоннаго проведенія всего изложеннаго въ жизнь и предвзрѣю, что указаніе для неисполненія указанныхъ приказаній будетъ въ корнѣ подложено со всей силой власти и виновные понесутъ суровыя наказанія.

Верховный Главнокомандующій А. К. Керенскій.
Начальникъ Штаба, генералъ-отъ инфантеріи А. Д. Ксеновъ.